いのちの輝きを見つめる

Meiji

第147期
中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日

CONTENTS

株主の皆様へ 1
営業の概況（連結） 2
中間連結貸借対照表 6
中間連結損益計算書／中間連結キャッシュ・フロー計算書 7
中間貸借対照表（単独） 8
中間損益計算書（単独） 9
業績の推移／連結子法人等 10
Meiji News 11
新製品紹介 12
トピックス 14
役員／従業員／主要な事業所 16
株式の状況 17

経営の基本方針

当社グループは、「夢と楽しさ、いのちの輝きを大切にし、世界の人々の心豊かなくらしに、貢献します」を企業理念に掲げ、「おいしさと健康」を創造するグローバルな企業集団として、これからもお客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、お客様の喜びを大切にすることを第一に、社員一人ひとりの個性も尊重しながら、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は平成17年９月30日をもちまして、第147期事業年度（平成17年４月１日から平成18年３月31日まで）の上半期を終了いたしましたので、ここに中間事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告申し上げます。

当上半期の業績につきましては、後掲の「営業の概況」に記載のとおりでありますが、当社グループを取り巻く事業環境は、少子高齢化の進展や、医療制度の諸改革による医薬品市場の成長鈍化など、依然として厳しい状況が続いており、当社グループがさらなる成長を実現するためには、既成概念にとらわれない新たな事業展開への挑戦を続ける必要があると考えております。

当社グループは、本年７月に従来の食料カンパニーとヘルスケアカンパニーを統合・再編し、「フード＆ヘルスケアカンパニー」を新設いたしました。この再編により、「健康」を中核とした新しいビジネスモデルの確立を目指してまいります。健康分野につきましては、お客様の健康に対するニーズの高まりから関連市場は近年伸長が続いており、ここでの成功が当社グループの今後の成長のカギになると考えております。

また、当社グループでは、「強くて、おもしろい会社」をキーワードに当期を最終年度とする中期経営計画「チャレンジ2005」の実現に向け、現在総力を結集して鋭意取組みを進めております。

なお、当期の中間配当金につきましては、すでにご案内申し上げましたとおり、１株につき金３円50銭と決定させていただきましたので、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年12月

営業の概況（連結）

（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）

当中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善、民間の設備投資や個人消費の増加など緩やかな景気回復を続けており、また、世界経済は、米国および中国をはじめとするアジアにおいて景気拡大基調が続いております。しかしながら、原油価格の動向により国内外経済の先行きに不透明感が漂う状況にあります。

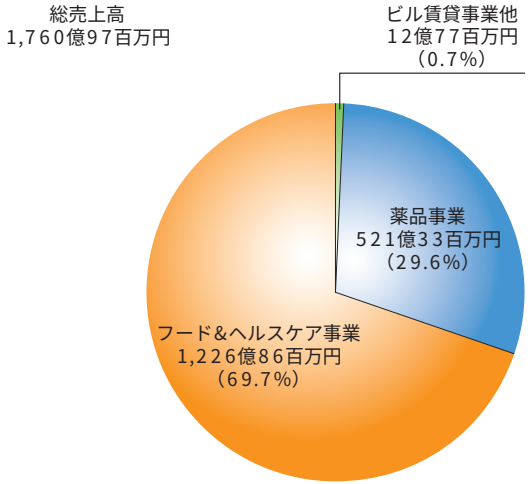
このような事業環境下、当社グループは、「健康」領域を中心とした積極的な事業展開を図り、本年７月にはフード＆ヘルスケアカンパニーを発足させ、さらなる市場競争力の強化による売上の拡大と収益力の回復に努めてまいりました。

この結果、連結売上高は1,760億97百万円（前年同期比5.0％増）、連結中間純利益は16億30百万円（前年同期中間純損失31億19百万円）となりました。

当社グループのセグメント別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当中間期の連結子法人等は、10ページに記載しております。

●売上高構成比（当中間期）



本年7月に食料カンパニーとヘルスケアカンパニーを統合・再編し、フード＆ヘルスケアカンパニーを発足いたしました。これにより当中間期よりセグメントを変更しております。

フード＆ヘルスケア事業におきましては、個人消費は緩やかな増加傾向ではありますが、菓子の消費は依然として横ばいに推移しております。一方、健康分野におきましては、消費者の健康・美容への関心の高まりから市場は拡大しておりますが、新規参入企業も多く競争が激化する事業環境となりました。

このような状況下、当社グループは、消費者ニーズとトレンドを先取りした差別優位性のある新商品や夏型商品の開発と戦略的なブランド別トータルマーケティング諸施策の展開により売上の拡大に努めてまいりました。この結果、フード＆ヘルスケア事業の連結売上高は1,226億86百万円（前年同期比4.7％増）となりました。なお、「フード＆ヘルスケア事業」の前年同期実績は、従来の「食料事業」と「ヘルスケア事業」との合計にて算出しております。

菓子につきましては、チョコレートは、夏型商品への取組みや販促活動を強化した結果、総じて好調に推移いたしました。主力の「ミルクチョコレート」は引き続き順調に伸長しており、「アーモンドチョコレート」はテレビＣＭおよび販促活動の強化により大幅な増売となりました。また、「ショパン」も新商品「キャラメルショコラ」を追加し売上に大きく寄与しました。

キャンデーは、主力の「チェルシー」

が「アジアンデザートミックス」の発売により伸長しました。
　ガムは、主力の「キシリッシュ」が、

は、株式会社明治フードマテリアは、主力の砂糖における主要取引先との取引条件が変更されたことにより、減売となりました。一方、明治チューインガム株式会社は、これまで培った商品開発力とマーケティングの強化により、好調に推移しました。また、スポーツクラブ施設を経営する株式会社明治スポーツプラザは、本年5月に東京ガススポーツ株式会社所有のフィットネスクラブを譲り受けたことにより大幅に伸長しました。

海外では、明治製菓シンガポール社は、主力の「ヤンヤン」「ハローパンダ」が現地市場および近隣諸国で順調に推移し、スタウファー・ビスケット社も米国市場において積極的な販売強化に努め、順調に業績が回復しております。

薬品事業の医療用医薬品につきましては、国内外の医療費抑制策の浸透、企業統合の進展、新薬開発における研究開発費用の増大、販売競争の激化等、厳しい環境が続いております。また、農薬・動物薬におきましても、市場の縮小による企業間競争の激化に加え、動物用抗生抗菌剤の適正使用の徹底等の行政による規制強化もあり、厳しい事業環境に終始しました。

このような状況下、医療用医薬品では、重点領域の感染症領域・中枢神経系領域における販売品目の絞込みと経営資源の集中投入を行い、農薬・動物薬では、主力品目を中心に積極的な営業活動を展開してまいりました。この結果、薬品事業の連結売上高は521億33百万円（前年同期比6.1%増）となりました。

医療用医薬品につきましては、抗菌薬では、市場が縮小し競争が激化するなか、主力製品の「メイアクト」「オメガシン」および「スオード」が好調に推移しました。また、「ハベカシン」は、堅調に推移したものの、「ホスミシン」は競争激化により、減売を余儀なくされました。

中枢神経系用薬におきま

薬品事業

その他の医療用医薬品では、アレルギー性疾患治療薬「エバステル」は、春先まで続いた花粉症の流行に加え、新剤形(口腔内崩壊錠)の発売もあり、好調に売上を伸ばしましたが、外用消毒薬「イソジン」は競争の激化により減売となりました。

農薬は、水稲の減反政策等厳しい環境下にありましたが、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」を中心に堅調に推移しました。

動物薬は、行政の規制強化による抗菌剤の市場縮小などの減売要因もありましたが、昨年6月に第一製薬グループより譲り受けた動物薬事業の移管製品の寄与により、ほぼ前年同期並みの売上を確保しました。

海外事業につきましては、主力の「メイアクト」は減売になりましたが、関節機能改善薬「アダント」、飼料添加物「コリスチン」等は好調に推移し、大幅な増売となりました。

なお、連結子法人等の業績につきましては、国内では、北里薬品産業株式会社は、日本脳炎ワクチンの定期予防接種に対する行政の勧奨が差し控えられた影響が大きく、減売となりました。また、富士アミドケミカル株式会社の化成品につきましても、引き続く海外品との競争激化により、減売となりました。

海外では、東南アジアのP.T.メイジ・インドネシア社は現地向け販売の低迷により減売となりましたが、タイ・メイジ社は、積極的な販売促進により「メイアクト」「コリスチン」を中心に好調に推移しました。また、スペインのテデック-メイジ ファルマ社も昨年発売した「メイアクト」の寄与により大幅な増売となりました。

■薬品主要製品

医療用医薬品	抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシン、シプロキサンほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒薬イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍薬テラルビシン、抗ウイルス化学療法薬ビクロックスほか）、人体用ワクチン、化成品
農薬 動物薬	農薬（Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、ジベレリン、アグレプトほか）、動物薬（メイポール、メイリッチ、アストップ、マイコバスター、ポセイドン、マリンバンテル、小動物用薬品ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか）

ビル賃貸事業他

ビル賃貸事業につきましては、首都圏における大規模ビルの需給環境は改善傾向にあり、主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」におきましても、既存入居テナントの解約、減室等もありましたが、後継テナントの積極的誘致が奏功し入居率が改善したことにより順調に推移しました。

ビル賃貸事業他としての収入は12億77百万円（前年同期比7.6%減）となりました。なお、「ビル賃貸事業他」の前年同期実績には、本年3月に清算した株式会社明治開発の業績が含まれます。

科目	当中間期（平成17年９月30日現在）	前期（平成17年３月31日現在）
資産の部	**333,124**	**339,848**
流動資産	**145,797**	**160,255**
現金および預金	13,898	23,357
受取手形および売掛金	68,169	76,365
たな卸資産	47,452	44,897
繰延税金資産	7,457	5,694
その他	8,868	10,036
貸倒引当金	△ 48	△ 95
固定資産	**187,327**	**179,592**
有形固定資産	**139,742**	**139,906**
建物および構築物	74,675	75,521
機械装置および運搬具	36,708	36,142
工具器具備品	2,253	2,269
土地	24,914	24,965
建設仮勘定	1,190	1,008
無形固定資産	**5,615**	**4,257**
連結調整勘定	2,686	2,115
その他	2,928	2,142
投資その他の資産	**41,969**	**35,428**
投資有価証券	36,991	31,159
長期繰延税金資産	262	240
その他	5,659	4,993
貸倒引当金	△ 943	△ 965
資産合計	**333,124**	**339,848**

科目	当中間期（平成17年９月30日現在）	前期（平成17年３月31日現在）
負債の部	**182,085**	**192,403**

中間連結損益計算書

中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　　目		
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,871	6,434
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,284	△ 9,988
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,566	13,544
現金および現金同等物に係る換算差額	35	

科　目	当中間期 （平成17年９月30日現在）	前　期 （平成17年３月31日現在）
資産の部	**302,786**	**311,376**
流動資産	**122,174**	**137,454**
現金・預金	8,639	16,937
受取手形および売掛金	56,299	65,465
商品・製品・半製品	22,958	20,417
原材料	8,563	8,428
仕掛品	8,613	9,662
繰延税金資産	6,531	4,771
その他の流動資産	10,581	11,813
貸倒引当金	△　13	△　42
固定資産	**180,611**	**173,921**
有形固定資産	**122,504**	**123,213**
建物および構築物	68,015	69,528
機械装置	29,668	28,888
車両運搬具	116	122
工具器具備品	1,876	1,931
土地	21,750	21,786
建設仮勘定	1,076	954
無形固定資産	**2,301**	**1,498**
投資その他の資産	**55,806**	**49,210**
投資有価証券	34,229	28,541
関係会社株式	16,309	16,234
出資金	428	370
関係会社出資金	2,231	1,757
長期貸付金	1,709	1,411
その他の投資	1,840	1,860
貸倒引当金	△　943	△　965
資産合計	**302,786**	**311,376**

中間損益計算書（単独）

（単位：百万円）

科目	当中間期（平成17年４月１日から平成17年９月30日まで）	前中間期（平成16年４月１日から平成16年９月30日まで）
（経常損益の部）		
営業損益の部		
営業収益	**131,263**	**120,708**
売上高	131,263	120,708
営業費用	**128,942**	**120,592**
売上原価	64,027	58,597
返品調整引当金繰入額	10	—
販売費および一般管理費	64,905	61,994
営業利益	**2,321**	**116**
営業外損益の部		
営業外収益	**1,873**	**1,933**
受取利息・配当金	1,113	1,029
雑収入	760	904
営業外費用	**1,005**	**774**
支払利息	543	494
雑損	462	279
経常利益	**3,189**	**1,276**
（特別損益の部）		
特別利益	**304**	**388**
固定資産売却益	244	183
投資有価証券売却益	4	182
その他の特別利益	55	22
特別損失	**574**	**6,162**
固定資産廃棄損	475	346
事業構造改善費用	—	5,443
その他の特別損失	98	373
税引前中間純利益	**2,919**	—
税引前中間純損失	—	**4,497**
法人税、住民税および事業税	61	65
過年度法人税等戻入額	103	505
法人税等調整額	1,280	△ 1,293
中間純利益	**1,682**	—
中間純損失	—	**2,763**
前期繰越利益	1,430	2,841
中間未処分利益	**3,112**	**77**

（注）　１株当たりの中間純利益　４円38銭　—
　　１株当たりの中間純損失　—　７円21銭

（備考）　記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結子法人等

（備考）当中間期の当社グループの連結範囲は、上記連結子

フード&ヘルスケア

●ショパン キャラメルショコラ

チョコレートのカップにヘーゼルナッツの香りの豊富な大人味のキャラメルショコラを注ぎ、重ね焼きクレープをのせたデザートチョコです。

●リッチフラン 粒いちご

さくさくのココアビスケットを粒々バニラ入りのふんわりしたホワイトショコラと甘酸っぱい粒々いちごの果肉が入ったストロベリーショコラでダブルコーティングしたリッチな味わいのフランです。

●たけのこの里 メープル&マカダミア

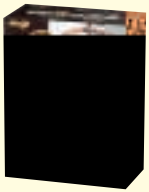
クランチマカダミア入りのさくさくクッキーにメープル風味のチョコとまろやかな味わいのチョコをダブルコートしたたけのこの里です。

●果汁グミぷぷるん マスカット味

ぷるぷるした柔らかなセンターグミを、果汁グミで包んだダブルの食感が味わえるグミです。女性に関心の高いコラーゲンを1袋に1500mg配合しました。

●チョコカール

ココアを練り込んだカールにミルクチョコレートをコーティングしました。さくさくした食感としっとりミルクチョコのハーモニーが味わえます。



●キシリッシュガム
カシスミント

女性層に人気の高いカシスをテーマにしたキシリッシュです。話題のカシスエキスを配合、特有の甘酸っぱさが味わえ、お口もスッキリします。

●銀座カリー 上・ビーフ

淡路島産の玉ねぎの旨み、レーズンと黒みつでコクを出し、バターモンテで香り高く仕上げたカレーソースに、じっくり煮込んだ牛すね肉を使用。上質なソースと具材を堪能していただけるワンランク上の銀座カリーです。

役　　員

（平成17年9月30日現在）

（平成17年9月30日現在）

本　社　東京都中央区京橋二丁目4番16号

ﾌｰﾄﾞ&ﾍﾙｽｹｱ／北海道統括支店（札幌）、東北統括支店（仙台）、首都圏統括支店（東京）、北関東統括支店（宇都宮）、中部統括支店（名古屋）、関西統括支店（大阪）、中四国統括支店（広島）、九州統括支店（福岡）
ヘルスケア東日本支店（東京）、ヘルスケア東海支店（名古屋）、ヘルスケア西日本支店（茨木）

薬　　品／薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品横浜支店、薬品関東支店（さいたま）、薬品名古屋支店、薬品京都支店、薬品大阪支店、薬品中国支店（広島）、薬品四国支店（高松）、薬品福岡支店、農薬札幌支店ほか5農薬支店、動薬北日本支店（仙台）ほか3動薬支店